2022年8月14日  川越教会

丸山　勉

自分を愛するように

［マタイによる福音書5章9節]

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

［ヨハネの手紙一4章7～11節］

「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。」

 [１] 「平和」を祈る月

8月は、とりわけ「平和」を考え祈る月とされています。明日は8月15日になります。77年前に日本が無条件降伏を受け入れた敗戦記念日で、今日は多くの教会で、どの教派の教会も「平和主日」として礼拝を守っていると思います。

しかし、私は今日のための準備をしながら、「平和を実現する・平和を作る者」といったタイトルでも良かったのですが、あえて「愛」ということを考えてみたいと思ってそういうタイトルを付けさせて頂きました。まあ、例えばロック歌手がよく「Love＆Peace」（愛と平和）という表現をするように、愛と平和はセットになっていることがあると思いますけれども、よく考えると、この二つは違う概念と言いますか性質を言っているようにも思うんですね。「Peace（平和）」と言う時、私たちは、そのような状態や風景を、思い起こします。どちらかというと静かです。けれども「Love（愛する）」と言うのはもっとアクティブではないでしょうか。愛というのは、静けさと言うよりアクション（行為）だと思います。私は、イエス様が「平和を実現する人々は幸いである」とおっしゃった時、そこには「愛」が働く、「愛」が不可欠なんだと促しているように思うのです。そして、その「愛の出どころ」と言ったら良いでしょうか、それは自分の努力でどうにかなるようなものではなく、神様の愛、イエスの愛をしっかり戴く、ということと深い関わりがあることだと思います。

［2］　イエスの十字架こそ「愛」

「神は愛である」。これは、新約聖書の言葉です。先ほどマタイ5:9と一緒に読んで頂いた「ヨハネの手紙一」の中に書かれています。旧約聖書の中には直接「神は愛である」という表現はありません。ですから、旧約の神は「裁きの神」「恐ろしい神」であり、新約の神は「愛の神」「優しい神」であって、神様は自己矛盾していると言われることがあります。果たしてどうでしょうか？しかし、よく読むと旧約聖書で描かれている神様も、実に憐み深いお方です。そうでなければ不信仰な民は、とっくの昔にエジプトで滅ぼされてしまったでしょう。カナンの地への旅に、新しい世代はいなかったでしょう。バビロン捕囚からの帰還もなかったでしょう。旧約聖書で語られる神様は、「歴史の中の人間と共に生きる神様」であり、エレミヤ書などによく表れていますが、人間のために「痛み」、悩む神様です。或る意味、とっても人間的なのです。そしてイザヤ書などに、やがて来る「メシア」預言が多く語られ、その預言の成就を、イエスが現れた時に、人々の信仰の目が開かれ、「あぁ、今神様は救い主としてイエスを遣わされて、神様の本質が「愛」以外の何ものでもないことを示して下さったのだ」と確信したのです。ヨハネが手紙の中で語っている通りです。4:10。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」

マタイ5:9「平和を実現する人々は幸いである」。イエス様はこの言葉を直接的には、みもとに招かれたご自分の弟子たちに語られました。またその背後にはこの山（丘）の上に多くの群衆たちもいて、イエス様の言葉を聞いていたのだと思います。ユダヤ教の会堂シナゴーグのような閉じられた密室空間ではありません。大きな空の下で、主の言葉は、まるで風に乗るような形で、それを真剣に聞く者にも、あるいはそうでない傍観的な者の耳にも届けられるのです！神様の言葉は、「すべての人」のための言葉だからです。

「平和を実現する人々は幸いである」。「いい言葉」「美しい言葉」だと思います。しかし私たちはこの主イエスの言葉に、新しい時代がやって来たことを知るべきであるようです。当時の多くのユダヤ人にとって、やがて来るメシアとは、異教徒に対して戦いを指揮し、勝利へと導き、エルサレムを復興させる軍事的メシア・民族的メシアでありました。戦って当たり前と。弟子たちでさえもそのようなメシアを期待していた訳です。だからユダヤ人にとって、十字架のイエス様というのは、全く残念な敗北者イエスでしかなかった。しかし、イエスは武力をもって戦わない。イエス―神の独り子が、殺されるままになっている。そこで神的な力を発揮されて十字架にかける者たちを打つこともしない。イエスはただの弱々しい、理想を掲げただけの男だったのでしょうか？そうではありません。そうではありません。―「平和を実現する人々は幸いである」。主はまことの平和のために、ご自分の苦難を通し、分けても十字架において、「愛」の戦いをして下さったのです。「平和を実現する人々は幸いである」。これはまず誰よりも主イエスご自身のことです。「ここに愛がある」。私たちはこの「愛」を知りませんでした。主イエスが身をもってこれを教えて下さったのです。

「戦争」に正当性を与える根拠の一つは「民族の誇り」ですね。でも、この世界を造られた神の独り子が全ての人の罪を身に負い、「あなたの罪は赦された」と宣言されたのですから、私たちは憎しみ合いの泥沼から抜け出させて頂いている筈です。大きく言えば、イエスにあって、この地球は「赦しの球体」です。ロシアもウクライナもない、日本や韓国もない、中国、台湾、アメリカもない筈です。これは指導者たちだけの問題ではないと思います。私たちはいつの間にか「愛」を失っているのです。「理屈」が先行してしまうのです。でもそこに本当の平和・平安があるかどうか、自分のこととして考えてみたいのです。

［3］ わたしの赦しの中で本当の平和を

さて、「戦い」というのは、相手を叩くようであって、結局のところ、自分自身を傷つけているのだと私は思うのです。

このような話を聞きました。NHKの「こころの時代」で放送された近藤紘子（こうこ）さんという牧師の妻であもある方のインタビューでした。近藤さんは広島で生後8ヶ月の時に被爆しましたが奇跡的に守られました。彼女の父親は谷本 清さんという日本基督教団・広島流川教会の牧師でした。やはり被爆しましたが、その後アメリカにも渡ったりして、多くの被爆者や孤児たちのために助けとなる働きをされました。戦後10年経った時、アメリカのTVのショー番組に谷本先生とご家族が招待されました。その時紘子さんは小学校5年生。番組で司会者が谷本牧師の働きなどを紹介された後に「あなたに合わせたい人がいます。あの時のB29エノラ・ゲイの副操縦士のキャプテン・ルイスです」と。大柄な男が、少し躊躇しながら入ってきます。紘子さんは「あの人が原爆を落としたのか…私が広島の友の仇を取ってやりたい」と本気で思って、その人を睨みつけるようにしていました。

司会者の「あの時のことを教えて下さい」との言葉に、ルイスは答えました。「私たちはマリアナ諸島テニアンを午前二時四十五分に飛び立ちました。攻撃目標は、広島、長崎、小倉の三ヶ所でした。広島は快晴との連絡で、攻撃目標は広島に決まりました。原爆投下後、引き返すと、広島の街は消滅していました。」さらに司会者は尋ねます。「あなたはその時、航空日誌に何か記しましたか？」ルイスはこう言いました。「神様、私たちはなんてことをしたんだ！」―目から涙が溢れました。その英語 「My God,what have we done？」を聞いた時、その涙を見た時、「この人は鬼じゃなかった」と思ったと紘子さんは言います。そして、ふと自分の心にも悪い思いやどうしようもない思いはたくさんあるということに気付かされて、「ごめんなさい」という思いで、何故かカニ歩きのようにしてルイスに近づき、その手を取ったというのです。するとルイスも紘子さんの手を取って下さった。それが今の紘子さんの「原点」になったと言われるのです。これは人間の力では出来ないことだと思います。理屈を超えているのです。神様が働いて下さったのではないでしょうか。

その後になって判ったことですが、ルイスさんは同国人に叩かれ、精神を病み、やがて亡くなったそうです。しかし小さな彫刻を造っていたことを紘子さんは知りました。「きのこ雲ひとつ、涙一滴」という作品です。それはルイスさんの悔い改めだったのだろうと思います。また、紘子さんはルイスさんとの出会いを機に、自分自身の「平和」を取り戻し、自分自身を愛することが出来るようになられた。そして今、牧師の妻として、また子供たちの養子縁組の働きや、国際的な財団「Children As The Peacemakers」のお働きなどもされています。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」これは、「平和ならざる状況」がある中で語られている言葉だと思います。敵意・争い、搾取、或いは、知らんぷり。私たちの中にも巣食う罪の心です。しかし、キリストは私たちを愛して下さる。「わたしの赦しの中で本当の平和を取り戻せ」と招いていて下さる。このような愛が、絵空事ではなく存在するのです。十字架のリアルな愛です！その愛に押し出されて自分自身をも取り戻すことが出来る。その時 「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」　（マタイ22:39）、また 「自分にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」（マタイ7:12）という、神様の新約の掟、愛と恵みの掟の中に生かされてゆくのだと思います。―「平和を作り出すものはさいわいなり。その人は神の子と呼ばれん」　。お祈り致します。

私たちの救い主イエス・キリストの父なる神様、どうぞ、すぐに敵を作ってしまう私たちをお赦し下さい、こんな私たちのためにあなたはどれほどの「愛」を私たちに注いで下さっているのか、それを見る目と、すぐに悔い改める柔らかな心をお与えください。どうかこの世界を憐れんで下さい。あなたは生きておられます。この世界が完成する、かの日に向かって、忍耐と希望の中に、信仰と愛を持って歩ませて下さい。主の御名によって祈ります。アーメン。